

コロナ禍の中で大切なこと

令和3年度が始まったばかりですが、残念なことにまた感染警戒レベルが4に上がってしまいました。昨年の臨時休業に比べれば子ども達が学校に来られていることはありがたいのですが、それでも学校での生活や学習も大幅に制限せざるをえなくなり、申し訳ない限りです。

1月のレベル4・5の時に比べると、全国的に若い世代の感染者数が急激に増加し、その重症化率も高まるなど更に注意が必要な状況となっています。子どもも含め、いつ、誰が、どこで感染してもおかしくはない状況になってきているように感じます。感染防止についてはご家庭、学校、施設などあらゆる場所で対策が講じられており、ワクチン接種の取り組みも少しずつ進んでいますが、新型コロナウイルスをかなり身近に感じるようになってしまった今、私たち一人ひとりが大切にしなければいけないこと、忘れてはいけないことが他にもあると思います。それは、“思いやりのこころ”ではないかと思っています。

新型コロナウイルスが怖いのは、「3つの“感染症”」という顔があるからだと言われています。

第1の感染症「病気」	病気そのもの。
第2の感染症「不安と恐れ」	ウイルスに不安や恐れを感じ、気づく力・聴く力・自分を支える力が弱まる。
第3の感染症「偏見・差別」	心無い言葉、正確ではない情報の広まりが人の心を傷つける。

この中で、特に第3の感染症は私たち一人ひとりの心がけで防げるものです。そして、そのお手本となるのは私たち大人のふるまいです。ネットが発達した現代ですから、口伝えだけではなく、SNSなども通じて日々いろいろなわさや不確かな情報が入ってきます。誰もが不安な中にあるので、それを他の人にも伝えてあげることがよいように考えてしまうのかもしれませんが、それによって傷ついてしまう人が必ずいることを決して忘れてはならないと思います。これはコロナに限ったことではありません。また、発達の途上にある子ども達は、たとえ高学年の児童であっても、聞いたことを正確に判断し、行動する力をまだまだ十分に備えていません。耳にしたことのうち、印象に残った部分、理解できた部分のみを他の人に伝えてしまうこともあり、それが不正確なまま広まってしまうこともあります。ご家庭での話題の取り上げ方についてもご配慮をいただければと思います。

誰も、強い不安の中にいると、普段はしっかりもっているはずの“人を思いやる心”がまろろびがちになってしまいかちです。地球規模の危機がすでに1年以上続いています。菅野小のどの子どもも悲しい思いをすることのないよう、思いやりの心を大切に子ども達を守っていきましょう。私たち職員も子ども達のために頑張ります。

現在の感染防止対策をお伝えします ～感染警戒レベル4～

通常の感染症防止対策に加えて、以下のように対応しています。変異株のこともあり、今後も心配ですが、しっかりと対策をした上で、工夫をして学習を進めていきたいと思っています。それにしても子ども達には申し訳ないです。

①授業

- ・対面して行う授業はなるべく避けています。 ・家庭科の調理実習は見合わせています。
- ・理科の実験は感染の心配が少ないもののみです。理科室での学習はアクリル板のパーティションを使っています。
- ・音楽のリコーダーや鍵盤ハーモニカを使った学習、合唱は見合わせています。
- ・体育はなるべく校庭で行います。体育館利用の場合は、間隔をとり、身体接触の無いように行います。

②行事・生活

- ・朝の開扉前、カバンを置いてのマラソンはせず、健康観察カード提出後に走るようにしています。
- ・2時休みの図書館の本の貸し出し、体育館での遊びは見合わせています。
- ・児童会活動も一部制限して行っています。
- ・外部講師を招いての学習、学年行事は見合わせています。

※今年のクラブ活動は、外部講師をお願いせず、職員のみで活動します。

③その他

- ・体育館、校庭ともに、社会体育等の外部団体による使用は中止しています。